

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	2024年12月10日まで（2000年3月31日設定）	
運用方針	RUSSELL/NOMURA Large Cap Valueインデックスをベンチマークとし、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。主としてマザーファンドを通じて、わが国の大型・中型株式の中から、企業の収益力や資産価値等から判断して、株価が割安に放置されていると思われる銘柄を厳選して投資します。株式の実質組入比率は、原則として高位を維持します。	
主要運用対象	ベビーファンド	日本株バリュース・ファンド・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。このほか、当ファンドで直接投資することがあります。
	マザーファンド	わが国の株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーファンド	株式への実質投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
	マザーファンド	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。
 ※公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。
 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

運用報告書（全体版）

日本株セレクト・オープン “日本新世紀” 日本株バリュース・ファンド



第41期（決算日：2020年6月10日）



受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、お手持ちの「日本株バリュース・ファンド」は、去る6月10日に第41期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
 ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用
フリーダイヤル **0120-151034**
 （受付時間：営業日の9:00～17:00、
土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客様の取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	標準価額			RUSSELL/NOMURA Large Cap Value		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
		税金分配	み入金	期騰落	中率	インデックス			
	円	円	円	%		%	%	%	百万円
37期(2018年6月11日)	11,073		0	△ 5.0	726.08	△ 2.1	96.2	—	1,423
38期(2018年12月10日)	9,786		0	△11.6	656.41	△ 9.6	98.1	—	1,218
39期(2019年6月10日)	9,651		0	△ 1.4	627.54	△ 4.4	97.5	—	1,166
40期(2019年12月10日)	10,348		300	10.3	680.00	8.4	98.8	—	1,193
41期(2020年6月10日)	8,920		0	△13.8	598.70	△12.0	93.6	—	1,046

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) RUSSELL/NOMURA Large Cap Valueインデックスは、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA Large Capインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額（時価総額は全て安定持株控除後）の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Marketインデックスのうち、時価総額上位約85%の銘柄により構成されています。RUSSELL/NOMURA Large Capインデックスのうち低修正PBR銘柄により構成されるインデックスがRUSSELL/NOMURA Large Cap Valueインデックスです。RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Frank Russell Companyと野村証券株式会社が作成している株価指数で、当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は両社に帰属します。なお、両社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	標準価額		RUSSELL/NOMURA Large Cap Value		株式組入比率	株式先物比率
		騰落率	騰落率	インデックス	騰落率		
(期首)	円		%		%	%	%
2019年12月10日	10,348		—	680.00	—	98.8	—
12月末	10,376		0.3	679.90	△ 0.0	98.2	—
2020年1月末	10,057		△ 2.8	660.52	△ 2.9	98.5	—
2月末	9,063		△12.4	600.39	△11.7	97.7	—
3月末	7,702		△25.6	521.17	△23.4	93.9	—
4月末	8,071		△22.0	539.17	△20.7	93.0	—
5月末	8,487		△18.0	567.53	△16.5	93.3	—
(期末)							
2020年6月10日	8,920		△13.8	598.70	△12.0	93.6	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

運用経過

第41期：2019年12月11日～2020年6月10日

当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第41期首	10,348円
第41期末	8,920円
既払分配金	0円
騰落率	-13.8%

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ13.8%の下落となりました。

ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（-12.0%）を1.8%下回りました。

基準価額の主な変動要因**上昇要因**

新型肺炎の新規感染者数の減少傾向などを受けて、欧米および国内での経済活動が正常化へ向かうことなどが期待されたことで、国内株式市況が一時的に上昇したことが、基準価額の一時的な上昇要因となりました。

下落要因

新型肺炎が欧米で急速に拡大し、経済活動の制限などを通じた世界的な景気悪化懸念を招いたことなどで国内株式市況が下落したことが、基準価額の下落要因となりました。

銘柄要因

上位5銘柄・・・ソフトバンクグループ、イビデン、SBIホールディングス、富士通、住友金属鉱山

下位5銘柄・・・東レ、三菱UFJフィナンシャル・グループ、IHI、リコー、丸紅

第41期：2019年12月11日～2020年6月10日

投資環境について

▶ 国内株式市況

国内株式市況は下落しました。

期首から2020年2月上旬にかけては、米国および欧州での金融政策の緩和や、米中貿易交渉が第一段階の合意に至ったことなどを受けて、世界経済悪化への過度な警戒感が後退する一方、新型肺炎拡大が懸念されたことなどから、国内株式市況は一進一退の動きとなりました。

2月中旬から4月上旬にかけては、新型

肺炎が欧米で急速に拡大し、経済活動の制限などを通じた世界的な景気悪化懸念を招いたことなどから、国内株式市況は下落しました。

4月中旬から期末にかけては、各国が積極的な金融政策や財政政策を打ち出したことや、新型肺炎の新規感染者数の減少傾向などを受けて、欧米および国内での経済活動が正常化へ向かうことなどが期待され、国内株式市況は上昇しました。

当該投資信託のポートフォリオについて

▶ 日本株バリュー・ファンド

日本株バリュー・ファンド・マザーファンド受益証券を通じてわが国の株式に投資しています。株式の実質組入比率は運用の基本方針にしたがい高水準を維持しました。

▶ 日本株バリュー・ファンド・マザーファンド

RUSSELL/NOMURA Large Cap Value インデックスの銘柄群の中から割安と判断される銘柄に厳選して投資することにより、値上がり益の獲得をめざし、銘柄選定を行いました。また、組入銘柄・組入比率は、保有している不動産等の含み損益を考慮した独自の修正株価純資産倍

率（PBR）を基にセクター内比較等を行い、その上で、経営陣が保有資産の価値を最大化しようとしているかや同一業種内における企業の優位性など定性面の評価などを総合的に考慮して決定しました。

組入銘柄数は38～40銘柄で推移させました。株価水準と企業の競争力や業績の変化などを勘案し、より割安と判断される銘柄への入れ替えを機動的・継続的に行いました。当期では、「三井不動産」や「伊藤忠商事」など8銘柄を新規に組み入れました。また、「大和ハウス工業」や「東京建物」など7銘柄を全株売却しました。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

▶ 日本株バリュー・ファンド

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（-12.0%）を1.8%下回りました。

マザーファンド保有以外の要因

信託報酬等のコストがマイナス要因となりました。

マザーファンド保有による要因

プラス要因

業種配分要因：銀行業、空運業をベンチマークに対してアンダーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

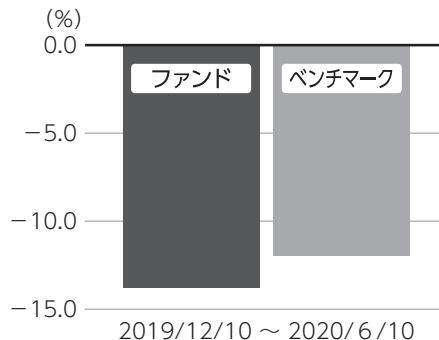
銘柄選択要因：SBIホールディングス、富士通をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

マイナス要因

業種配分要因：鉄鋼をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことや情報・通信業をベンチマークに対してアンダーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

銘柄選択要因：リコー、セイコーエプソンをベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

基準価額（ベビーファンド）と
ベンチマークの対比（騰落率）



▶ 分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第41期 2019年12月11日～2020年6月10日
当期分配金（対基準価額比率）	－（－％）
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	3,960

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

▶ 日本株バリュー・ファンド

日本株バリュー・ファンド・マザーファンド受益証券の組入比率は、高水準を維持する方針です。国内株式の実質組入比率につきましても、概ね90%以上の水準を維持する方針です。

▶ 日本株バリュー・ファンド・マザーファンド

今後も大型・中型株式の中から、企業の資産価値や収益力などから判断して、株価が割安に放置されていると思われる銘柄に厳選して投資することで、中長期的にベンチマークを上回る投資成果をめざして運用を行います。

新型肺炎の収束に向けては未だ予断を許

さないものの、先進国では経済活動制限の段階的解除が始まり、経済正常化に向けて動き始めました。最悪期は脱したと思われる一方、ワクチンや特効薬の開発には相応の時間を要することを踏まえると消費マインドの急速な回復は期待し難く、経済全体の回復ペースは緩慢なものになると考えられます。運用にあたっては、比較的早期に需要回復が見込まれる分野やコロナ禍を経て競争力の高まる企業などを重視して銘柄選択を行う方針です。

こうした変化を見極め、企業の本質的な価値から判断してより割安と判断できる個別銘柄を選択していく方針です。

2019年12月11日～2020年6月10日

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	74	0.828	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
(投 信 会 社)	(35)	(0.386)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(35)	(0.386)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(5)	(0.055)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	4	0.044	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(株 式)	(4)	(0.044)	
(c) その他費用	0	0.001	(c) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.001)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	78	0.873	

期中の平均基準価額は、8,932円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

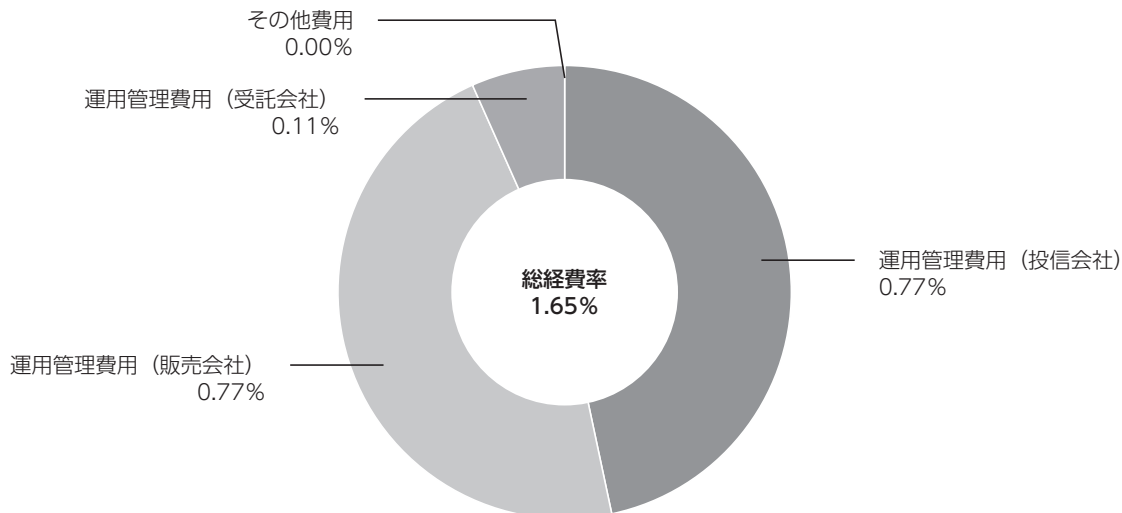
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.65%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2019年12月11日～2020年6月10日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
日本株バリュー・ファンド・マザーファンド	千口 18,841	千円 50,719	千口 34,577	千円 84,247

○株式売買比率

(2019年12月11日～2020年6月10日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	日本株バリュー・ファンド・マザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	4,495,292千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額	7,374,582千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.60	

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2019年12月11日～2020年6月10日)

利害関係人との取引状況

<日本株バリュー・ファンド>

該当事項はございません。

<日本株バリュー・ファンド・マザーファンド>

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 2,678	百万円 283	% 10.6	百万円 1,816	百万円 262	% 14.4

平均保有割合 13.4%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人の発行する有価証券等

<日本株バリュー・ファンド・マザーファンド>

種 類	買 付 額	売 付 額	当 期 末 保 有 額
株式	百万円 95	百万円 77	百万円 532

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	463千円
うち利害関係人への支払額 (B)	56千円
(B) / (A)	12.3%

(注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、三菱UFJフィナンシャル・グループ、三菱UFJリース、モルガン・スタンレーMUF G証券です。

○組入資産の明細

(2020年6月10日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
日本株バリュー・ファンド・マザーファンド	397,304	381,568	999,290

○投資信託財産の構成

(2020年6月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
日本株バリュー・ファンド・マザーファンド	999,290	94.6
コール・ローン等、その他	56,934	5.4
投資信託財産総額	1,056,224	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年6月10日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,056,224,382
コール・ローン等	55,049,662
日本株バリュース・ファンド・マザーファンド(評価額)	999,290,401
未収入金	1,884,319
(B) 負債	9,598,180
未払解約金	908,914
未払信託報酬	8,674,212
未払利息	74
その他未払費用	14,980
(C) 純資産総額(A-B)	1,046,626,202
元本	1,173,312,761
次期繰越損益金	△ 126,686,559
(D) 受益権総口数	1,173,312,761口
1万口当たり基準価額(C/D)	8.920円

<注記事項>

- ①期首元本額 1,152,970,067円
 期中追加設定元本額 47,036,777円
 期中一部解約元本額 26,694,083円
 また、1口当たり純資産額は、期末0.8920円です。

②純資産総額が元本額を下回っており、その差額は126,686,559円です。

③分配金の計算過程

項 目	2019年12月11日～ 2020年6月10日
費用控除後の配当等収益額	7,767,391円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	－円
収益調整金額	429,792,058円
分配準備積立金額	27,181,494円
当ファンドの分配対象収益額	464,740,943円
1万口当たり収益分配対象額	3,960円
1万口当たり分配金額	－円
収益分配金金額	－円

○損益の状況 (2019年12月11日～2020年6月10日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 4,615
受取利息	66
支払利息	△ 4,681
(B) 有価証券売買損益	△155,467,643
売買益	2,033,242
売買損	△157,500,885
(C) 信託報酬等	△ 8,689,192
(D) 当期損益金(A+B+C)	△164,161,450
(E) 前期繰越損益金	△117,587,628
(F) 追加信託差損益金	155,062,519
(配当等相当額)	(429,596,490)
(売買損益相当額)	(△274,533,971)
(G) 計(D+E+F)	△126,686,559
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	△126,686,559
追加信託差損益金	155,062,519
(配当等相当額)	(429,792,058)
(売買損益相当額)	(△274,729,539)
分配準備積立金	34,948,885
繰越損益金	△316,697,963

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

*三菱UFJ国際投信では本資料のほか、当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

日本株バリュー・ファンド・マザーファンド

《第40期》決算日2020年6月10日

[計算期間：2019年12月11日～2020年6月10日]

「日本株バリュー・ファンド・マザーファンド」は、6月10日に第40期の決算を行いました。
以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第40期の運用状況をご報告申し上げます。

運用方針	中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行います。主としてわが国の大型・中型株式の中から、企業の収益力や資産価値等から判断して、株価が割安に放置されていると思われる銘柄を厳選して投資することを基本とします。RUSSELL/NOMURA Large Cap Valueインデックスをベンチマークとし、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。株式の組入比率は、原則として高位を維持します。
主要運用対象	わが国の株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	株式への投資割合に制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		RUSSELL/NOMURA Large Cap Value		株組入比率	株先物比率	純資産額
	円	騰落率	インデックス	騰落率			
36期(2018年6月11日)	30,419	△4.2	726.08	△2.1	96.4	—	7,489
37期(2018年12月10日)	27,084	△11.0	656.41	△9.6	98.3	—	7,563
38期(2019年6月10日)	26,932	△0.6	627.54	△4.4	97.7	—	7,531
39期(2019年12月10日)	29,960	11.2	680.00	8.4	99.1	—	8,162
40期(2020年6月10日)	26,189	△12.6	598.70	△12.0	98.1	—	8,007

(注) RUSSELL/NOMURA Large Cap Valueインデックスは、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA Large Capインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額（時価総額は全て安定持株控除後）の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Marketインデックスのうち、時価総額上位約85%の銘柄により構成されています。RUSSELL/NOMURA Large Capインデックスのうち低修正PBR銘柄により構成されるインデックスがRUSSELL/NOMURA Large Cap Valueインデックスです。RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Frank Russell Companyと野村證券株式会社が作成している株価指数で、当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は両社に帰属します。なお、両社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

(注) 「株先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		RUSSELL/NOMURA Large Cap Value		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	インデックス	騰 落 率		
(期 首) 2019年12月10日	円	%		%	%	%
	29,960	—	680.00	—	99.1	—
12月末	30,066	0.4	679.90	△ 0.0	98.4	—
2020年1月末	29,183	△ 2.6	660.52	△ 2.9	98.8	—
2月末	26,327	△12.1	600.39	△11.7	97.9	—
3月末	22,394	△25.3	521.17	△23.4	94.2	—
4月末	23,543	△21.4	539.17	△20.7	97.2	—
5月末	24,845	△17.1	567.53	△16.5	97.6	—
(期 末) 2020年6月10日	26,189	△12.6	598.70	△12.0	98.1	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

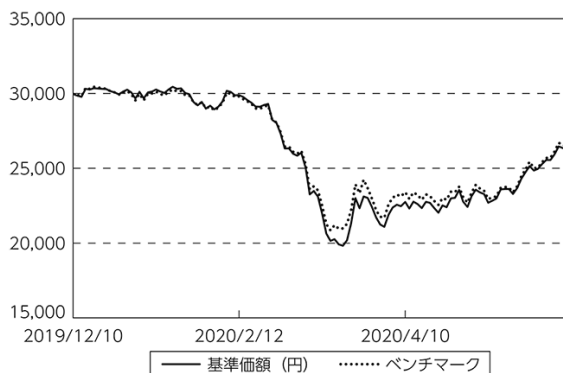
◎基準価額の動き

基準価額は期首に比べ12.6%の下落となりました。

◎ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(−12.0%)を0.6%下回りました。

基準価額等の推移



(注) ベンチマークは期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

●基準価額の主な変動要因

(上昇要因)

新型コロナウイルスの新規感染者数の減少傾向などを受けて、欧米および国内での経済活動が正常化へ向かうことなどが期待されたことで、国内株式市況が一時的に上昇したことが、基準価額の一時的な上昇要因となりました。

(下落要因)

新型コロナウイルスが欧米で急速に拡大し、経済活動の制限などを通じた世界的な景気悪化懸念を招いたことなどで国内株式市況が下落したことが、基準価額の下落要因となりました。

(銘柄要因)

上位5銘柄…ソフトバンクグループ、イビデン、SBIホールディングス、富士通、住友金属鉱山
 下位5銘柄…東レ、三菱UFJフィナンシャル・グループ、IHI、リコー、丸紅

●投資環境について

◎国内株式市況

国内株式市況は下落しました。

- ・期首から2020年2月上旬にかけては、米国および欧州での金融政策の緩和や、米中貿易交渉が第一段階の合意に至ったことなどを受けて、世界経済悪化への過度な警戒感が後退する一方、新型コロナウイルス拡大が懸念されたことなどから、国内株式市況は一進一退の動きとなりました。
- ・2月中旬から4月上旬にかけては、新型コロナウイルスが欧米で急速に拡大し、経済活動の制限などを通じた世界的な景気悪化懸念を招いたことなどから、国内株式市況は下落しました。
- ・4月中旬から期末にかけては、各国が積極的な金融政策や財政政策を打ち出したことや、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少傾向などを受けて、欧米および国内での経済活動が正常化へ向かうことなどが期待され、国内株式市況は上昇しました。

●当該投資信託のポートフォリオについて

- ・RUSSELL/NOMURA Large Cap Valueインデックスの銘柄群の中から割安と判断される銘柄に厳選して投資することにより、値上がり益の獲得をめざし、銘柄選定を行いました。また、組入銘柄・組入比率は、保有している不動産等の含み損益を考慮した独自の修正株価純資産倍率(PBR)を基にセクター内比較等を行い、その上で、経営陣が保有資産の価値を最大化しようとしているかや同一業種内における企業の優位性などの定性面の評価などを総合的に考慮して決定しました。
- ・組入銘柄数は38~40銘柄で推移させました。株価水準と企業の競争力や業績の変化などを勘案し、より割安と判断される銘柄への入れ替えを機動的・継続的に行いました。当期では、「三井不動産」や「伊藤忠商事」など8銘柄を新規に組み入れました。また、「大和ハウス工業」や「東京建物」など7銘柄を全株売却しました。

- 当該投資信託のベンチマークとの差異について
ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(−12.0%)を0.6%下回りました。

(プラス要因)

- ・業種配分要因：銀行業、空運業をベンチマークに対してアンダーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。
- ・銘柄選択要因：SBIホールディングス、富士通をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

(マイナス要因)

- ・業種配分要因：鉄鋼をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことや情報・通信業をベンチマークに対してアンダーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。
- ・銘柄選択要因：リコー、セイコーエプソンをベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

◎今後の運用方針

- ・今後も大型・中型株式の中から、企業の資産価値や収益力などから判断して、株価が割安に放置されていると思われる銘柄に厳選して投資することで、中長期的にベンチマークを上回る投資成果をめざして運用を行います。
- ・新型コロナウイルスの収束に向けては未だ予断を許さないものの、先進国では経済活動制限の段階的解除が始まり、経済正常化に向けて動き始めました。最悪期は脱したと思われる一方、ワクチンや特效薬の開発には相応の時間を要することを踏まえると消費マインドの急速な回復は期待し難く、経済全体の回復ペースは緩慢なものになると考えられます。運用にあたっては、比較的早期に需要回復が見込まれる分野やコロナ禍を経て競争力の高まる企業などを重視して銘柄選択を行う方針です。
- ・こうした変化を見極め、企業の本質的な価値から判断してより割安と判断できる個別銘柄を選

択していく方針です。

○1万口当たりの費用明細

(2019年12月11日～2020年6月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 12 (12)	% 0.047 (0.047)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
合 計	12	0.047	
期中の平均基準価額は、25,969円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2019年12月11日～2020年6月10日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国	上場	千株	千円	千株	千円
内		1,598 (42)	2,678,610 (-)	1,513	1,816,681

(注) 金額は受渡代金。

(注) ()内は株式分割・増資割当および合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2019年12月11日～2020年6月10日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	4,495,292千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	7,374,582千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.60

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2019年12月11日～2020年6月10日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$ %	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$ %
株式	百万円 2,678	百万円 283	10.6	百万円 1,816	百万円 262	14.4

利害関係人の発行する有価証券等

種 類	買 付 額	売 付 額	当 期 末 保 有 額
株式	百万円 95	百万円 77	百万円 532

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	3,484千円
うち利害関係人への支払額 (B)	419千円
(B) / (A)	12.0%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、三菱UFJフィナンシャル・グループ、三菱UFJリース、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2020年6月10日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
鉱業 (1.5%)			
国際石油開発帝石	151.9	152.7	119,075
建設業 (2.5%)			
大和ハウス工業	69	—	—
積水ハウス	—	91.7	198,301
繊維製品 (1.4%)			
東レ	324.3	202.3	113,288
化学 (4.9%)			
旭化成	—	90.8	85,397
三菱瓦斯化学	60.3	—	—
三菱ケミカルホールディングス	181	231	155,486
富士フイルムホールディングス	—	29.3	146,822
医薬品 (3.8%)			
武田薬品工業	78.9	72.1	296,691
ガラス・土石製品 (0.9%)			
太平洋セメント	24.1	28.3	74,146
鉄鋼 (1.6%)			
日本製鉄	73.1	—	—
日立金属	104.1	92.6	123,343
非鉄金属 (2.6%)			
住友金属鉱山	34.8	63.3	201,673
金属製品 (1.0%)			
SUMCO	45.9	46.5	78,259
機械 (3.0%)			
アマダ	65.5	71.8	72,661
日立建機	50.7	52.7	160,998
IHI	45.6	—	—
電気機器 (12.8%)			
イビデン	—	60.5	179,624
日立製作所	65.6	72	267,048
富士通	12.2	16.5	196,762
セイコーエプソン	62.6	47.3	67,307
パナソニック	138.1	173.1	170,849
リコー	143.1	135.4	125,380
輸送用機器 (9.0%)			
デンソー	40	—	—
アイシン精機	74.9	90.4	328,604
本田技研工業	114.9	124.9	379,571
その他製品 (2.1%)			
凸版印刷	79.7	84.2	163,432

銘柄	期首(前期末)	当 期 末		
	株 数	株 数	評 価 額	
	千株	千株	千円	
電気・ガス業 (3.1%)				
中部電力	182.1	174.4	246,165	
陸運業 (5.4%)				
京成電鉄	76.7	54.1	199,629	
日本通運	—	37.2	221,712	
海運業 (1.2%)				
商船三井	33.6	45.5	94,867	
情報・通信業 (8.5%)				
日本電信電話	42.6	119.6	300,435	
ソフトバンクグループ	60	68.8	368,424	
卸売業 (8.1%)				
メディカルホールディングス	78.3	86.4	188,179	
伊藤忠商事	—	95.3	224,240	
丸紅	255.4	—	—	
三菱商事	83.1	90.4	225,231	
小売業 (1.2%)				
J.フロント リテイリング	—	96.4	92,158	
銀行業 (5.9%)				
三菱UFJフィナンシャル・グループ	828.5	983	461,027	
証券・商品先物取引業 (7.0%)				
SBIホールディングス	105.2	124.4	291,718	
野村ホールディングス	459.3	502.9	254,668	
保険業 (6.9%)				
第一生命ホールディングス	180.2	166.6	253,815	
東京海上ホールディングス	53.4	56.5	287,641	
その他金融業 (0.9%)				
三菱UFJリース	227.6	125.5	71,033	
不動産業 (3.0%)				
三井不動産	—	103.3	235,730	
東京建物	129.3	—	—	
サービス業 (1.7%)				
電通グループ	39.6	43.4	131,936	
合 計	株数・金額	4,875	5,003	7,853,338
	銘柄数<比率>	39	40	<98.1%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

○投資信託財産の構成

(2020年6月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 7,853,338	% 98.0
コール・ローン等、その他	163,041	2.0
投資信託財産総額	8,016,379	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年6月10日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資産	8,016,379,225 円
コール・ローン等	79,401,855
株式(評価額)	7,853,338,070
未収配当金	83,639,300
(B) 負債	8,936,502
未払解約金	8,936,395
未払利息	107
(C) 純資産総額(A-B)	8,007,442,723
元本	3,057,506,649
次期繰越損益金	4,949,936,074
(D) 受益権総口数	3,057,506,649口
1万口当たり基準価額(C/D)	26,189円

<注記事項>

- ①期首元本額 2,724,508,021円
 期中追加設定元本額 567,057,790円
 期中一部解約元本額 234,059,162円
 また、1口当たり純資産額は、期末2.6189円です。

②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

<DC>日本株スタイル・ミックス・ファンド	2,511,783,141円
日本株バリュース・ファンド	381,568,751円
日本株スタイル・ミックス・ファンド	136,957,684円
三菱UFJ 日本株スタイル・ミックス・ファンドF(適格機関投資家限定)	27,197,073円
合計	3,057,506,649円

○損益の状況 (2019年12月11日～2020年6月10日)

項 目	当 期
(A) 配当等収益	123,833,157 円
受取配当金	123,850,500
受取利息	658
その他収益金	2,531
支払利息	△ 20,532
(B) 有価証券売買損益	△1,094,828,656
売買益	240,894,179
売買損	△1,335,722,835
(C) 当期損益金(A+B)	△ 970,995,499
(D) 前期繰越損益金	5,438,105,484
(E) 追加信託差損益金	833,364,344
(F) 解約差損益金	△ 350,538,255
(G) 計(C+D+E+F)	4,949,936,074
次期繰越損益金(G)	4,949,936,074

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。